

第 1 回 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会

議事要旨

- 1 日時 令和 6 年 8 月 6 日（火）10：00～12：00
- 2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウェストルーム
- 3 出席者（五十音順、敬称略）

氏 名	役 職 等
猪野 猛	福岡商工会議所 理事・事務局長
小出 秀雄	西南学院大学 学術研究所長
中山 裕文	九州大学大学院 工学研究院 教授
萩島 理	九州大学大学院 総合理工学研究院 教授
林 灯	九州大学 エネルギー研究教育機構 教授
久留 百合子	リエゾンオフィス 代表／消費生活アドバイザー
松山 倫也	九州大学大学院 農学研究院 特任教授
山内 勝也	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授

4 会議次第

- （1）開会
- （2）部会長選出
- （3）現行計画の検証及び福岡市の環境の現況等について
- （4）第四次計画の方向性（案）について
- （5）閉会

5 議事要旨

(1) 開会

環境政策部長あいさつ

(2) 部会長選出

部会長は、委員の互選により松山委員に決定

(3) 現行計画の検証及び福岡市の環境の現況等について

【事務局】

資料 1、資料 2 について説明

【委員】

スライド 50 ページ「生物多様性の保全」について、ND という記号があるが、ND とは何を指すのか。

【事務局】

年度を指し、役所では慣例的に使用するものである。今後記載するときに注意したい。

【委員】

スライド 9 ページの「PM2.5 の予測精度」における「見逃し率」とはどのようなものか。

また、スライド 11 ページの「都市部における緑被面積」の目標値に 103ha を掲げているが、目標値の根拠を教えてほしい。

スライド 22 ページの「1 日あたりの鉄道・バス乗車人員」を温暖化対策の中で指標とした理由を教えてほしい。

スライド 34 ページの「世帯あたりのエネルギー消費量」において、世帯・人口も増えている中で、エネルギー消費量は下がっているとの説明があったが、本当の意味でエネルギー消費が減少しているのか疑問を抱く。

【事務局】

見逃し率について、福岡市では PM2.5 の濃度が一定濃度以上になると予測された際に注意喚起として予測情報の提供を行っているが、PM2.5 が一定濃度以上観測されたにも関わらず、予測情報を提供できなかった場合に見逃しとしている。市民への影響を加味して指標として取り扱っている。

【事務局】

「1日あたりの鉄道・バス乗車人員」について、自家用車ではなく公共交通を利用した方がCO₂排出量の減少に繋がるという観点から、地球温暖化対策の指標の1つとしている。目標値については、福岡市都市交通基本計画の目標値を流用し設定している。福岡市温暖化対策実行計画でも同じ指標を用いているが、現在、住宅都市局において目標値の見直しを行っている。住宅都市局において新たに設定された目標値は、引き続き温暖化対策実行計画でも使用する予定である。

また「世帯あたりのエネルギー消費量」について、家庭部門全体のエネルギー消費量は減っており、世帯数も増えていることから、分子が減って分母が増えており一層減少した結果となっている。

【委員】

世帯あたりの人数は減っているため、世帯あたりのエネルギー消費量だけでエネルギー消費の減少が進んでいると厳密には言えないと考える。

【事務局】

「都市部における緑被面積」の都心部は、御笠川～百年橋通り～高宮・大正通りで囲まれたおよそ3km四方を指しており、初期値の96haをもとに目標値を設定し、緑被面積を増やしていくということで、当時成果指標として設定したものである。

【委員】

目標値に置いている103haの根拠は何か。

【事務局】

緑の基本計画で設定されている指標を使っており、根拠については事務局で確認して再度報告したい。

【委員】

今後、目標値の妥当性を含めて検討した方が良いと思う。

【委員】

世帯あたりのエネルギー消費量を用いてエネルギー消費の進捗を把握するのは一般的な手法である。世帯あたりの人数は減っているが、家一軒の断熱改修やLED導入の効果を確認する上で、世帯あたりのエネルギー消費をみるのは良いと思う。

現行計画は再エネ設備容量を目標としているが、九州全域で順調に導入が進んでいる。エ

エネルギーシステムの観点から、再エネをこれ以上導入すると、社会コストに見合わなくなるほど、かなり導入が進んでいる。JPEX のスポット市場価格を見ると昼間の再エネ電力はほぼ 0 円である。これは、再エネ電力を使用する人がいない時間帯が生じていることを表している。したがって、設備容量を増やすことは重要だが、使われない時間が多いことを踏まえ、エネルギーマネジメントや需要側のデマンドレスポンスの観点が重要ではないだろうか。電力会社の事業になるため、自治体で取り組むことは難しいかもしれないが、再エネだけ増やしても有効に使えないのは非効率と考える。エコキュートのように、太陽光発電の電力を利用してお湯を沸かし、昼間の電力をお湯として貯めておくような蓄熱などの取組みも進めていく必要がある。熱中症の問題を踏まえると、極端に言えば家に人がいなくても CO₂ が出ない電力で家を冷やし、夕方に電力を使用しなくても家が冷えているような従来にはない省エネの行動や設備が必要と考える。

【事務局】

昼の創エネなどによる電力供給と需要とアンバランスな状態となり、供給側での出力制御が生じており、系統用蓄電池を含めた蓄電池機能で昼間貯めた電気を夜間に使用することは、これらの課題への対策の 1 つと考えている。九州電力では従来夜間で稼働していたエコキュートを太陽光などの再エネが多く発電する昼間に誘導する取組も行われている。九州電力や西部ガス等とは脱炭素に関する連携協定を結んでいるため、事業者と一体となってこれらの課題について検討していきたい。

【委員】

事業系ごみについては、コロナ後、市内のインバウンド増加による食事等で増えていると思う。また、空き缶やペットボトルのポイ捨てが多くなっている。福岡空港にて出国する外国人にアンケートをとると、一番困っているのはごみ箱の少なさという話をよく聞く。経済活動の再開だけでなく、インバウンド客の急増に対しての視点も入れられると良いのではないかと思う。

【事務局】

ごみ箱を置くと安易にごみを捨てられてしまう観点もあって市では設置しない施策を取ってきている。インバウンドの増加と事業系ごみ量については、過去から分析しているが、相関を見るのが難しい。一方で、まったく相関がないとも考えておらず、インバウンドから出たごみをどう処理していくか、ということは非常に重要な観点であるため、しっかり検討していきたい。

【会長】

スライド 54 ページに「緑の質的向上を図る」とあるが、具体的にどのような取組を行っていくのか。

【事務局】

市では水道局をはじめとした関係部局で、昔の植生に合わせて、広葉樹、針葉樹等を植えていき従来の生態系に戻していく取組などを検討している。生物多様性保全にも繋がってくるので、取組に際しては、関係者へのヒアリングも実施しながら進めていきたい。

【委員】

スライド 41 ページに「貨物車の脱炭素化に係る対策の強化」とあるが、具体的にどのような取組を行っていくのか。

【事務局】

物流のラストワンマイルで使用する小型貨物は電気自動車も対応できる状況であり、こういった車両の EV 化の推進等が挙げられる。このような取組は国も支援しており、市としても事業所に対して充電設備の補助を行っている。大型貨物では給食配送車や FC パッカー車のように、水素モビリティ導入に向けた実証を行っている。バイオ燃料などの燃料の脱炭素化についても実証事業を行っており、その結果を踏まえながら、引き続き啓発も行っていくたい。

【委員】

小型貨物も電動化等の対策が見込まれるが、給食配送車等より大きく、排出量の寄与も大きい大型貨物の対策の検討を進めていく必要がある。移動範囲が広域になるため市だけの対策では難しいかもしれないが、乗用車の対策だけを講じても排出量の削減に大きく寄与しないと考える。また、同時に生活環境への騒音について、環境基準が未達成の地域が残っている状況が続いており、乗用車の電動化だけでは変わらないため、一緒に模索したい。

【委員】

スライド 48 ページに「プラスチックの分別収集」とあるが、プラスチックは製品を生産する動脈産業と連携して動脈側からの働きかけが重要である。今後、動静脈連携、特に動脈側へのアプローチの観点で考えている取組はあるか。

【事務局】

動脈と静脈の連携は、循環経済をまわす点で市としても重要な観点と認識しているが、福岡市は消費都市であり、動脈産業が身近に存在しない地理的特性からアプローチが難しい。

プラ新法においても環境配慮設計の推進については謳われているが、リサイクルを進めていき、リサイクル技術の高度化を含めて、動脈産業に働きかける必要があると考えている。また、市としてリサイクルに取り組む中で、リサイクルがしにくい製品等、課題を抽出して、動脈側への働きかけをしていくことが有効と考えている。また、事業者連携が重要な視点であると認識しており、事業者と連携を図りながら、循環経済の形をうまく作りたいと考えている。

【委員】

スライド 66 ページに挙げられている雑がみ回収促進袋の取組は実際配られることで認識出来たが、食用油の回収ボックスは置かれていることを気づかないことも多く、うまく宣伝してほしい。取り組んでみたい人はたくさんいると思う。

【事務局】

スーパーマーケットの食用油回収は今年の 4 月に開始したばかりであるが、まだ設置場所が少なく、広報に関しても更に取り組んでいく必要があると考えている。店舗によっては設置場所が分かりづらいということもあると思うが、店舗側とも協議をしながら多くの市民の方に持ってきていただけるように普及啓発に努めたい。

【委員】

スライド 67 ページにエシカル消費とあるが、一般の人にはあまり浸透しておらず、購入から廃棄までのトータルでの教育、啓発が必要と考える。エシカル消費については、次期計画では強調して示してほしい、実行してほしい。

また、自動車の騒音や CO₂ 排出量の課題は、渋滞が多いということも要因の 1 つと考えるため、渋滞の解消に向けた対策を実施してほしい。

【事務局】

エシカル消費について、アンケートを行っても認識が低いのが現状である。取組としては市政だよりの中でエシカル消費に関する記事を載せ、MSC 認証等のエコラベルについて啓発を実施しているところである。また、イオンがエシカル消費の普及啓発を熱心に取り組んでいるため、連携して小学生を対象とした消費啓発のイベントを行い、小さい頃からエコラベルに慣れ親しんでいただくとともに、保護者への購買促進を図っていく。引き続き事業者と連携しながらこのようなキャンペーンを行っていくことが重要と考える。

【事務局】

自動車の騒音や CO₂ 排出量の課題については、様々な取組を行っていくべきと考えおり、公共交通の利用促進や渋滞緩和のための道路整備、都市部の流入抑制等といった取組を総

合的に行っていくことが必要と考える。また、マスタープランの改定に伴い、総合交通体系づくりを検討中であるため、CO₂ 排出量削減の観点からも関連局と連携して検討していきたい。

【委員】

騒音に係る環境基準の達成という観点からは、渋滞時のアイドリングはそこまで影響はないが、生活環境への影響という意味では重要である。総合的な取組と回答があったが、自動運転化で加減速を減らしたり、プラトニング（トラックの隊列並行）や共同積載など、物流の効率化を一層進めていくことも良いと思う。また、路面の改善も重要である。路面の舗装が荒れることで騒音に繋がるとともに、抵抗が大きくなり CO₂ 排出量も多くなる。世界的にもタイヤの摩耗率で認証基準を厳しくしていく話があるため、そういった面からも路面の対策は有効だと考える。

【会長】

エシカル消費をはじめ横文字が多くなってきている中、市民に対してどのように浸透させていくか、やり方が重要になってくると思う。

（４）第四次計画の方向性（案）について

【事務局】

資料 3 について説明

【委員】

包括的でよくまとまった方針になっていると思うが、不足している視点として、AI やビッグデータの収集と環境政策の関わりの視点が足りないと思う。人々の行動変容を促すもあり、今まではアンケート調査といった事後的な調査でデータを得てきたが、リアルな世界とメタバースの世界が複合的に進んでいく未来が来ると思う。次期計画は 10 年先までの計画になるため、このような技術革新がどう進んで、それによって人々の行動をどこまでモニタリングできるかやどのような環境に関する指標やデータを得られるのかを注視してほしい。通信会社と連携してデータを解析することができると良いと思う。

【事務局】

デジタル技術の変容が予想されるので、それらを活用した行動変容という視点についても、新たな計画にどのように反映できるか検討していきたい。

【会長】

キーワードを挙げるとしたらどのようなものがあるか。

【委員】

AI、ビッグデータ、人々の行動のモニタリングや行動の分析が挙げられる。

【委員】

構造面は良く出来ている印象を受ける。重点施策の打ち出し方も良いと思う。国の方針のため仕方がないが、ウェルビーイングという言葉がなじみにくい。SDGs もやっと言葉が定着してきたように思えるが、SDGs の言葉を計画上に残すことは考えているか。

【事務局】

SDGs は 2030 年をゴールとしている目標で、今後、SDGs の次の目標をどうするかという議論も出てくると思う。考え方自体は普遍的なものなので、計画にどのように反映できるか、今後検討していきたい。

【会長】

期限がある単語をどう扱うかや、次々に新しい単語が出てくるので対応が難しいところだと思う。

【委員】

行動変容は良いと思うが、EV の購入や断熱改修、ZEH にするなど、市民や事業者に一定のコストがかかる。このような対策の実施を促すためにインセンティブや政策的な補助がセットとなった行動変容が重要だと思う。経済的に回収が出来ると理解出来れば自然と普及していくと考える。変容について、市民の意識を変えるだけではない一歩踏み込んだ政策を計画に盛り込んでもらえると良いと思う。

【事務局】

ご指摘いただいた視点を踏まえ、計画にどのように反映できるかや、施策としてどのように取り組んでいくかに関しては、今後検討していきたい。

【委員】

重点的に取り組むべきことを市民に示すことが重要であり、重点施策を基本施策より先にする構成は良いと思う。22 ページのめざすまちの姿は例示だと思うが、個人的には福岡市の特性が伝わる例 2 がよいと思う。引き続き市の特性が現れるキャッチフレーズを検討してもらいたい。

【委員】

めざすまちの姿に事業者や経済の観点を盛り込められると良いと思う。

【委員】

重複するが、めざすまちの姿の「都市」というキーワードに事業者、経済の視点が含まれると思うが、もう少し明示的に示しても良いと思う。特に、中小事業者の行動を変容させていくことは大事なポイントになると思う。また、行動変容に向けた広報として、これまで実施してきたチラシの配布等では限界があると思うため、行動変容のためのデザインを考えることについて、大学と連携した取り組みを行ってはどうか。すぐには難しいと思うが、今後具体的に一緒に検討できればよいと考えている。

【事務局】

計画の体系の中では、重要施策として事業者連携を位置付けているが、めざすまちの姿の中に、事業者、経済のニュアンスをどのように盛り込んでいくかについては、今後検討していきたい。また、大学との連携に関しても、一緒に取り組めることがあればぜひお願いしたい。

【委員】

めざすまちの姿については、例2がよいと思う。「アジアのモデル都市」をフレーズとして入れることについて、胸を張って言える都市は少ないが、福岡は言えると思うので、ぜひ入れてほしい。

【会長】

検討した各内容については、10月に開催予定の環境審議会総会にて報告を予定している。本日いただいた意見を踏まえて、事務局で再度整理していただくが、その内容の確認については会長一任ということでよろしいか。

(異議なし)

(5) 閉会

環境政策部長あいさつ